

◆井上 博 議員

【建設工事指名停止処分要綱について】

問 前回の質問以後、どのように変更したのか。

答 独占禁止法違反行為に係る措置要件は町内の案件のみを対象としていたが、町外における違反行為も指名停止の対象にすべきとの結論に達したため、平成26年6月30日訓令第20号により要綱を改正し、平成26年7月1日より施行している。

【浄化槽推進事業について】

問 浄化槽設置基数は何基になったか。また水洗化の普及率は何%か。

答 平成26年12月時点において、合併浄化槽の数は、市町設置型の設置数が468基、補助事業による設置数が88基、個人設置が626基、公営住宅等公共施設の設置が73基の合計1,255基が設置されている。

また、水洗化に係る普及率については、毎年、環境省が行っている浄化槽処理人口調査によると、合併浄化槽設置により生活排水処理を行っている人口は、平成25年度末現在で3,528人であり、同時期の鬼北町の人口が11,299人であるので、合併浄化槽のみの水洗化率は31.2%となる。

問 浄化した水を放流する場所(水路等)は改善されたのか。

答 放流先が農業用水路等である場合な

どは水利権組合、または水利権者の承諾をいただき、事業申請時に関係者の同意書を提出していただくよう指導しており、それでもなお放流先に問題が発生した場合は当事者間で解決していた、大きくこととしている。また、公共の河川・水路等への放流の場合は、河川または道路管理者それぞれの立会のもと確認をいただいております。現在は放流先の問題は発生していないと認識している。

【学校・保育所の不審者対策について】

問 施設のまわりはフェンスおよび門扉等により外部者が入りにくくなっているか。

答 現在、町内8つの小中学校のうち、防犯対策用に設けたフェンスは、広見中学校体育館東側のフェンスのみである。現存する各学校のフェンス等は、児童生徒の安全を考慮した学校敷地と法面土羽や公道等を分ける防護柵であると考えている。

保育所については、すべての保育所に設置済みであり、定期的な安全点検を実施し破損箇所の早期発見等も心がけている。また門扉等については、施錠等により外部からの出入り口を必要最小限にし、関係者が出入りしなければならぬ場合以外は開放しないこととしている。

問 不審者等が入った場合の訓練はしているか。

答 平成14年度から現在まで、ほぼ毎年各小中学校において、鬼北交番または

宇和島警察署署員を講師に招き、総合訓練を実施している。児童に対しては講話等の指導を実施し、教師に対しては、さすまたの使い方など不審者対応の仕方の実技講習も行っている。

保育所においても学校と同様に、宇和島警察署の協力を得て、園内における犯罪、不審者侵入を想定した防犯・避難訓練を毎年実施している。

問 通報および避難等のマニュアルは出ているか。

答 マニュアルについては、各学校において作成している。

また、近隣の不審者情報が宇和島警察署から教育委員会に直接FAXが届くようになっており、直ちに町内学校に転送し、要注意の喚起を促している。なお、日吉地域においては、西予市からも不審者情報を収集している。また近年は、各学校において、侵入者対策以外に、登下校時の防犯教育にも力を入れている。

保育所においても不審者対応マニュアルを作成しており、マニュアルに沿った冷静な行動がとれるよう日々心がけているところである。

【鬼のモニユメントについて】

問 森の三角ぼうしの売上げとの因果関係をどのように考えているか。

答 鬼のモニユメント建立後まだ1ヵ月ではあるが、入込客、売上額ともに前年度同月を大幅に上回るなど如実に効果が見えてきている状況である。2月期だけの1ヵ月の集計ではあるが、順

調な滑り出しを見せていることは、出荷されている方々の生産意欲を促すとともに各生産者の所得向上にも繋がっているところである。

また、地元消費者や観光客の皆さんにも好影響を与えており、地域活性化に向けての経済効果も向上傾向にあり、今後も鬼に関連する新しい商品販売に取り組むなど、来場客の呼び込みに取り組んでいきたい。

問 今後、鬼のまちづくりの宣伝、販促策はどのようなことをしていくのか。

答 鬼のまちづくりについては、お客様に何度も足を運んでいただけるように、鬼のモニユメント「鬼王丸」を三つの神通力を持つ一種のパワースポットと位置づけることでさまざまな仕掛けを考えながら、鬼のピンバッチや鬼の金棒、新たな伝説をつづった絵本をつくるなどの付加価値を付け、宣伝に取り組んでいるところである。

また、モニユメント設置後、町内外からアイデアを提供いただき、食を含め商品化を進めており、すでに多数の商品を販売しているほか、日本全国から鬼の商品を集め販売している。

さらに、これから鬼に関する造形物を集めたいと考えており、千葉で開催された全国の造形師が集まるイベントに出向き、3千人余りの個人造形師に本町の取組みについて情報の発信をしてきたところである。

これらの取組みにより、新たな入込み客の増加や、物販機能、飲食機能、展示機能等の多様な機能を配置するこ